

【第113回生涯教育講座】

炭酸ランタン服用中の透析患者における胃粘膜病変

まる やま りる け
丸 山 理 留 敬

キーワード：炭酸ランタン，高リン血症，胃粘膜病変，アミロイドーシス

はじめに

我が国において2014年末での慢性腎臓病（CKD）による透析患者数は32万人近くにのぼっている¹⁾。1－2年後にはピークに達すると考えられているが、急激な患者数の減少は期待できず、現在その医療費は透析を行うだけで年間1兆6000億円に達している。さらに、透析には種々の合併症があり、それらを防止し治療するためにも費用がかかる。その合併症の中でよく知られているものに2次性副甲状腺機能亢進症とアミロイドーシスがある。

2次性副甲状腺機能亢進症は厳密には合併症というよりCKDによるリンの排泄障害からくる高リン血症に由来するものであり、透析でも十分にリンを除去することはできない。これを防ぐために近年、消化管内でリンを吸着しその吸収を抑える炭酸ランタン（商品名ホスレノール）が有効であるとされ、本邦では2012年から販売が開始されて広く使用されている。しかし炭酸ランタンにも副作用があり、胃腸障害は当初から知られていたようであるが、その機序は不明であった。ところが昨年から本年初頭にかけて、ランタンが胃粘膜

のマクロファージに貪食された状態で沈着しているという症例が相次いで報告された^{2,7)}。

一方、一般にアミロイドーシスは種々の物質に由来する、 β シート構造に富むアミロイドと呼ばれる線維性タンパクが諸臓器に沈着する病態の総称であり、現在10種類以上の前駆蛋白質が知られている。その中で、透析患者の場合は血中の β_2 ミクログロブリン（HLA class 1の構成成分）が長期透析に際して上昇し、これが前駆蛋白質となって主に骨・関節周囲にアミロイド（ $A\beta_2M$ ）の沈着を来たすものをいう。症状としては手根管症候群が代表的である。しかしその詳細な沈着機序については未だ不明である。 $A\beta_2M$ の沈着は消化管にもまれには起こりうるものの、粘膜下層以深が中心であり、AAアミロイドーシスのように消化管粘膜を生検して沈着の有無をチェックする意義は比較的低いと考えられてきた⁸⁾。

しかし昨年我々はランタン沈着症として報告されたものと同様な胃粘膜組織所見を呈する、日本人透析患者6例を見出し、その組織像がランタンと $A\beta_2M$ 両者の沈着によることを証明し、2016年3月のアメリカ・カナダ病理学会（USCAP）で発表する機会を得た。内視鏡でこれを発見し、病理学的に検索することの臨床的意義はまだ不明であり、今後の追跡調査によってなされるべきであるが、そのためには症例の集積が必要である。

Riruke MARUYAMA

島根大学医学部病理学講座

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部病理学講座